

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——



特集

選べる夫婦のかたち

～分かり合うまで話してみる～

行ってみました

原宿カウンセリングセンター (HCC)

23

男女共同参画センター“ひらく”最近の動き

センター便り・No.7

「ひらく」が全国のみなさんと交流しました

8月29日から31日まで、埼玉県比企郡嵐山町にある国立女性教育会館（通称ヌエック）で、平成20年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」が行われました。

今回は小平市から「小平市女性のつどい」が「地域の活性化と男女共同参画」というテーマで、研修棟1階の講堂エントランスホールにこれまで29年間の活動を伝える展示をしました。

その中で、「小平市女性のつどい」のメンバーが創刊からかわっている小平市の広報誌「ひらく」も創刊号から第22号まで展示されました。

講演会のほか、3日間に36のワークショップが開催されるとあって

全国から多数の女性が参加していましたが、参加者全員が通る入口を入ってすぐ左、いい場所だったことも幸いして、たくさんの方が「ひらく」を開いてみたり、実行委員に質問したりしていました。



会場の国立女性教育会館研修棟 展示された「ひらく」



政府は、今年度を「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）元年」として、昨年策定された「憲章」と「行動指針」の理解を広め、より多くの人が働き方を見直し、「変えてみよう」と行動を始めるように、「カエル！ジャパン」キャンペーンを実施しています。

「カエル！ジャパン」キャンペーン

あなたも、参加してみませんか？

このキャンペーンには、個人でもグループでも参加できます。参加するには、内閣府男女共同参画局のホームページで、「カエル！ジャパン」キャンペーン参加企業・団体・個人活動規約に同意し、シンボルマーク等の利用規約に同意して、参加登録書を送信すればいいのです。シンボルマークをダウンロードして活動のチラシを作ることもできます。

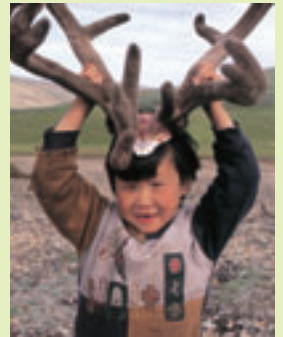
地球を這うように旅する ～関野吉晴さんのグレートジャーニー～

人類の拡散とグレートジャーニー・ルート図



現在、武蔵野美術大学教授（文化人類学）の関野吉晴さんは探検家であり、医師である。大学在学中に探検部をつくり、アマゾンへ行ってから南米に魅せられた。旅を重ねるうちに、居候をさせてもらった先住民たちの役に立ちたいと考え、日本に戻って学び直し医師になった。

1993年から「グレートジャーニー」に取り組み、2002年2月タンザニアのラエトリに到着した。それは人類の起源をさかのぼる旅で、動力を使わず、腕力や脚力を使って移動する旅だった。1997年アメリカ大陸を縦断して一時帰国した折に行われた講演記録の中で「伝統社会では本音で付き合い、イヤな人でも排除せずに取り込んでいる。現代人が学ぶことは多い」と語っている。また、初めてアマゾンの源流に入った時の体験も印象的だ。言葉が全くわからないアシャニンカ族の人たちに出会い、屋根だけの家に案内された時、何か物をプレゼントしようとしても拒絶された。食べ物は持ってきてくれるけれど誰も近くへ来ない。「ものすごく寂しくなり、日本の童謡を思いつくままに歌っていたら子どもがまねをして歌い、大人たちも囲んできた」と話している。人との交流はモノではなく、育った国の文化を表わしたときに気持ちが通じ合えた、その出来事が強く印象に残っているようだ。



昨年出版された『関野吉晴対談集1993～2007』では、様々な相手との興味深い話が展開されている。その中での、彼らから生きるヒントが得られるという「幸福の再定義」が心に響く。

☆アマゾンやアンデス、シベリアやヒマラヤなどの人々の生き方は共通している。効率を優先させない。競争を好まない。時間がゆったり流れている。便利さやモノの豊富さ、長生きできるとか、そんなものはなくても彼らはすごく幸福に見える。



ひらく

第23号
平成20年10月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課
☎042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

相京香代子 北川 紘二 笹 和紀
笹尾かをる 佐野 里美 鈴木さよ子
谷原 裕子 涌井真知子